

障害が最重度とみなせる人を優先することはご了承ください。

これとは別に、医療行為を要する障害者は、知的障害・肢体不自由程度を問わず、重症心身障害福祉の対象に含めるべきと考えています。非医療型福祉施設がこうした障害者を対応することはできません。医療機能を持つ福祉施設の代表である重症心身障害児施設は、医療を要する障害児(者)のための施設という役割を今後とも果たしていきます。

一年を振り返って

一年間すばるで

経験したこと

池谷 早織

すばるに就職して一年がたとうとしています。一年を振り返ると、利用者さんの様々な表情が一番に浮かびます。

四月、すばるに入ったばかりの頃、利用者さんの気持ちがよくわからず戸惑いました。最初にAさんに挨拶した時、顔は笑っているけれど手つきはものを叩いているような動きに、楽しいのか怒っているのか区別がつきませんでした。

それでも一緒に過ごす中で、少しずつ、怒って叩いているのではないことや、Aさんがどんな表情をするのかわかってきました。表情がなんとなくわかると、どんなことが楽しいのかや苦痛なのかということも見えてきました。

Bさんの食事の介助で、食べるタイミングがつかめず時間ばかりかかってしまい、ほとんど食べてもらえないことがありました。気づくと、私は食べてもらおうと必死になっていて、Bさんも表情がとてもしんどくなっていました。Bさんの苦痛な顔に気づいた時、どうしたら少しでも楽に食事ができるのか悩みました。先輩職員に訊いてみると、Bさんは口の周りが汚れるのが嫌いなこと、自分が必死になると相手にもそれが伝わってしまふことを教えてくれました。それから気をつけて食事を勧め、やさしい言葉かけを心がけることで、自分もBさんも落ち着いた食事ができるようになってきました。

他にも、利用者さんの楽しそうな表情を見て、私も楽しくなり笑ったり嬉しかったりします。職員の話に耳を傾け笑ったり、好きなものを食べておいしそうに顔をするCさん。興味のあるものを見つけ、

真剣な眼差しで手を伸ばすDさん。そんな姿に、私もこっそり見ていたくなったり、声をかけて応援したくなったりします。特に、歌を歌うなど一緒に何かしている時に笑顔が見られると、楽しいと感じてくれていることが嬉しくなってきました。

一年間を通して、利用者さんも私の気持ちを感じていることを実感しました。利用者さんにとって楽しいことが沢山あるように、私も穏やかに明るくいたいのです。そして、嫌なことや辛いことが減るよう、表情や体の動きなど見逃さず、何が不快であるのか考えていきたいです。これからも、まだ私の知らない表情に出会うことがあると思います。そんな時も利用者さんが楽しく穏やかに過ごすことを大切にしていきたいです。

(すばる 介護職員)

一年を振り返って

伊藤 紗輝

私のこの一年は『変化』の年でした。高校の卒業式が終わって、数週間後には社会人になり、まわりの環境が大きく変化しました。慣れない車

に乗り片道四〇分の道のりを通勤するだけで、ヘトヘトになっていた頃もありました。学生時代の友人と休みが合わず、なかなか会えなくて、社会人と学生の違いを実感したこともありました。

しかし、夢だった職業に就くことができ、とても充実した毎日を過ごすことができました。私は中学生の時、障害者施設にボランティアに行っていたのがきっかけで、将来は福祉の道に進みたいと思い、福祉科のある高校に進学しました。高校の先生に「高卒で障害者施設に就職するのは難しい。」と言われたため、夢を叶えることはできないのだと半ば諦めていました。だから、おおぞらに就職が決まった時は本当に嬉しかったです。この一年仕事も楽しく、もっと仕事ができるようになりたい、もっと利用者さんのことを知りたいと思ひ、頑張ることができました。利用者さんの笑顔を見るたびに、この仕事に就けてよかったと心から思えます。入社したばかりの頃と比べて、発言や行動も少しは社会人らしくなったのではないかと思います。来年度も一生懸命頑張っていきたいです。恥ずかしくてあまり大きな声では言えないのですが、今

年の反省点の一つにひとり早起きができなかったことがあります。特に早番の時など、親に起こしてもらったことがとても多かったです。そこだけはどうしても学生気分から抜けさせませんでした。今年こそはひとり早起きができるようになって、両親にも社会人らしくなったと思ってもらえるように頑張ってみようと思います。

(うらら 介護職員)

次号から、『絵本の世界』にかわって新コーナー『私の一曲』がスタートします。職員のオススメの一曲、心に残る一曲、カラオケの十八番などを載せる予定ですのでどうぞお楽しみに！

